

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, May, 2007

課長 関 勉 T. Seki

幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 佐藤裕久 H. Sato

5月の状況 (佐藤)

☆ C/2007 K5 (Lovejoy)

5月29日朝、12等の明るい天体の発見が NEO Confirmation Page に掲載され、筆者から彗星課メーリングリスト(以下 oaa-comet ML)に、「Terry Lovejoy が新たな天体を見つけたようです。」と発見の位置と New Object TJ0001 の追跡位置推算表を添えて知らせた。翌30日、IAUC 8840 にオーストラリアの Terry Lovejoy が5月26日、200mmf/2.8カメラレンズによる90秒12枚の画像から青緑色の尾のない彗星を発見し、ニュージーランドの John Drummond と Siding Spring の Robert H. McNaught が確認と報じられた。

国内の観測は、11月初旬の明け方東南東の低い空に見えてくるが、その頃は既に光度は19等以下に落ちて観測は難しいだろう。

☆ C/2007 E2 (Lovejoy) (写真 a)

5月になって眼視全光度は9等～11等に落ちてきた。

5月8日、芸西天文台の関課長は oaa-comet ML で、「かなり急速に北上し赤緯は50度に達しました。やや低空でしたが、コマはかなり拡散して大きく、中心集光がはっきりしています。60cmでの写真では恒星状の13mの核が鮮明です。…」、23日には、「ここらで眼視の限界のようです。とても暗いが長年培われた眼は反応します。」とコメントした。

5月24日、熊本県の宇都宮章吾氏は、 oaa-comet ML で、「…ここ数日だいたい暗く小さくなり、捜索中に気が付くには、体調がよく集中していないと、難しくなりました。120mm F3.5 レンズ+Kiss-D カメラでは、青く写っており、デジタルカメラは、彗星捜索には有効な器材のようです。」と5月8日～22日までの眼視観測報告と併せデジタルカメラによる彗星捜索の有効性を知らせてきた。

眼視による観測が次のように報告されている。

2007	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
May	7.57	9.6	3.5'	8	-	-	4/5	3/5	60×20cmR	関 勉	
	8.64	9.3	4	6	-	-	3/5	3/5	25×15cmB	宇都宮章吾	
	8.65	9.9	4	7	-	-	4/5	3/5	60×20cmR	関 勉	
	11.59	10	4	3/	-	-	4/5	5/10	49×32cmL	張替 憲	
	11.68	9.9	3.5	7	-	-	4/5	3/5	60×20cmR	関 勉	
	11.70	9.5	3	5	-	-	3/5	3/5	25×15cmB	宇都宮章吾	
	13.60	10.5	3	6	-	-	2/5	3/5	60×20cmR	関 勉	
	15.69	10	6	3/	-	-	4/5	6/10	49×32cmL	張替 憲	
	19.65	11.5	2	6	-	-	4/5	3/5	60×20cmR	関 勉	
	21.73	10.5	3	4	-	-	4/5	2/5	25×15cmB	宇都宮章吾	
	22.65	11.8	2.5	5	-	-	3/5	4/5	60×20cmR	関 勉	
	22.84	10.8	2	4	-	-	2/5	3/5	25×15cmB	宇都宮章吾	
	25.65	11.9	3	5	-	-	3/5	4/5	60×20cmR	関 勉	
	26.69	11.3	2.7	3	-	-	-	-	75×40cmL	吉田誠一	

☆ 96P/Machholz 1

千葉県船橋市の張替 憲氏は5月15日、九十九里海岸で観測し、oaa-comet MLに「…96Pは眼視では大変見にくく、予報位置に恒星状の集光がなんとか確認できました。」との報告があった。

5月28日、吉田誠一氏から、「微光星が密集した所にいますが、星の海に淡い光芒が浮かんでいるように見えました。意外にも、まだ明るいようです。」と報告があった。

また、関課長は5月19日の日記の中で、「…この日全光度としては12等位ですが、モーションが早いので60cmで10分位の露出を行うと鋭い恒星状の線を引きます。極めて淡い光芒が大きく広がっているようです。これはFの暗い反射鏡の写真では残念ながら写りません。…」と書いている。

眼視による観測が次のように報告されている。

2007	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
May	15.75	12	2'	7	-	-	4/5	6/10	49×32cmL	張替 憲	
	26.72	12.8	0.8	3	-	-	-	-	144×40cmL	吉田誠一	

その他彗星の発見は次のとおり。

☆ C/2006 WD₄ (Lemmon) (写真 b) 2006年11月20日 UT、Mt. Lemmon で発見された小惑星状天体 2006 WD₄ が E. Guido と G. Sostero (伊) のリモート観測によって彗星であることが確認された。(IAUC 8835, 2007 May 10)

☆ C/2007 JA₂₁ (LINEAR) 5月11.30日 UT、小惑星状天体 2007 JA₂₁ が LINEAR

によって発見された。NEOCP に掲載後、幾人かの CCD 観測者によって彗星状であることがわかった。(IAUC 8837, 2007 May 13)

☆ C/2007 K1 (Lemmon) 5月 18.44 日 UT、Mt. Lemmon サーベイによって小惑星状天体が発見された。NEOCP に掲載後、幾人かの CCD 観測者によって彗星状であることがわかった。(IAUC 8838, 2007 May 25)

☆ P/2007 K2 (Gibbs) 5月 21.15 日 UT、A. R. Gibbs は、Catalina Sky サーベイ (0.68-m Schmidt 望遠鏡 + CCD) によって彗星を発見した。(IAUC 8838, 2007 May 25)

☆ C/2007 K3 (Siding Spring) 5月 23.43 日 UT、G. Garradd は、Siding Spring サーベイのコース上に小惑星状天体を発見。5月 25.35-25.49 日 UT、R. H. McNaught は 0.5-m Uppsala Schmidt 望遠鏡 + CCD で少し拡散した 6" のコマのイメージを観測した。(IAUC 8839, 2007 May 26)

☆ C/2007 K4 (Gibbs) 5月 25.32 日 UT、A. R. Gibbs は、Catalina Sky サーベイ (0.68-m Schmidt 望遠鏡 + CCD) によって彗星を発見した。(IAUC 8839, 2007 May 26)

☆ C/2007 K6 (McNaught) 5月 27.80 日 UT、R. H. McNaught は、0.5-m Uppsala Schmidt 望遠鏡で得た Siding Spring Survey の画像から 6" のコマのある彗星を発見した。(IAUC 8841, 2007 May 31)

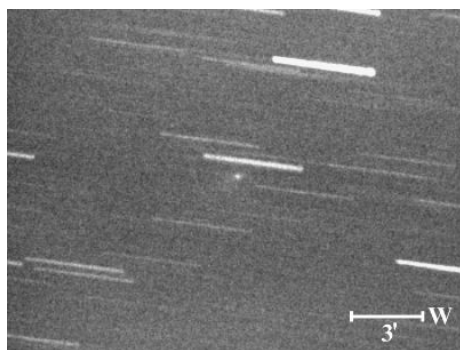
その他比較的明るい彗星は、C/2007 E1 (Garradd)、C/2005 L3 (McNaught) などであった。



(写真 a) C/2007 E2 (Lovejoy) 2007, 05, 13 20:40 UT

LRGB 3~10x180s Astrograph 12" f/3.8 + CCD

© Gerald Rhemann and Michael Jäger



(写真 b) C/2006 WD₄ (Lemmon) 2007, 05, 26

May 26.476 UT exp. 14s x40 25cm L + CCD

埼玉県上尾市 門田健一氏